

氏名	篠 崎 洋 二
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	甲 第 513 号
学位授与の日付	昭和56年3月31日
学位授与の要件	医学研究科病理系病理学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	³ H-thymidineを用いたオートラジオグラフィによるア デノウイルス12型誘発ラット脳腫瘍の初期増殖病変に関する 研究
論文審査委員	教授 矢部芳郎 教授 栗井通泰 教授 小田琢三

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

アデノウイルス12型誘発腫瘍の初期増殖病変は脳室上衣下の未分化神経上皮性細胞を母細胞として発生し、異常細胞集塊、微小腫瘍結節を経て進展腫瘍へと発育する。その過程で退形成形資が発現することによって単一細胞でも腫瘍と認識される異型巨細胞が最も早期に出現した。異常細胞集塊はその後脳室の何れの部位の上衣下層にでも観察されたのに対し微小腫瘍結節は脳室腔が生後閉鎖した tapetum および嗅脳の領域(閉鎖脳室領域)に集中して発生し、脳室腔が存在する側脳室壁の上衣下層(開放脳室領域)には著しく少かった。後者の領域では異常細胞集塊ないし微小腫瘍結節の多くが脳室内へ突出して増殖し、先端から崩壊脱落する所見がみられた。また³H-TdRの標識率をみると上衣下異常細胞集塊と微小腫瘍結節は高値を示したのに、突出結節と脱落細胞は著明に低かった。この脱落現象が開放脳室領域に微小腫瘍の少かった重要な原因と考えられ、脳の部位別構造に腫瘍芽の増殖進展を制禦する一種の排除機構の存在することが示唆された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、アデノウイルス12型によるラット脳腫瘍の発生状態を光顕およびオートラジオグラフィにより検討し、腫瘍が脳室上衣下細胞を母細胞として異常細胞集塊、微小腫瘍結節を経て進展してゆくこと、又開放脳室領域ではこれらの異常細胞集塊ないし微小腫瘍結節の崩壊脱落が起ることを認めたもので、医学博士の学位に値する業績と認める。